

【一般社団法人ルーツオブマーシャルアーツ協会(RMAA)道着規定】

●計量時について

- ・柔術部門は、試合時と同一条件(道着着用)での計量とする。
- ・道着MMA部門は、裸計量とし、道着着用の必要はない。

●道着の素材

- ・道着及び帯は、綿、又はそれに近い素材で作られている必要があり、過度に厚く、硬い素材は許可されない。
- またほつれ等がなく、清潔な状態でなければならない。

●道着の色について

- ・道着の色は、選手が自由に選択することができ、上衣と下衣の色が違う道着も許可される。

●パッチ / 刺繍 / ペイントについて

- ・ペイントが施された道着は許可されない。
- ・道着/帯には、主催者が許可しない表現を貼付することは、いかなる形であれ許可されない。
- ・道着へのパッチ及び刺繍は、通常のグリップを妨げない部位にのみ貼付が許可される。(袖回り、肘回り、膝回り、裾回り等の部位への刺繍、パッチは許可されない。)
- また、しっかりと固定されていないパッチ、またはほつれているパッチ/刺繍は許可されない。

●道着 / 帯のサイズについて

- ・上衣の丈の長さは、骨盤(臀部を覆う)まで十分な長さがなければならない。
- ・上衣の袖の長さは、腕を身体の前に伸ばした時、袖口が手首から5cm以内に達しなければならない。
- ・上衣の袖の幅は、腕を両側に肩まで水平に上げ伸ばした時、道着と腕の間に7cm以上のたるみ(隙間)がなければならない。
- ・上衣の襟は、幅が4cm~5cm、厚さが1.3cm以下でなければならない。
- ・下衣の長さは、直立した状態で、足首(踝)から5cm以内に達していなければならない。
- ・下衣の幅は、裾回り、及び、膝回りをしっかりと握ることが可能な幅がなければ許可されない。
- ・帯の幅は、4cm~5cmでなければならない。
- ・帯の長さは、腰に隙間なく二重結びで結ばれ、極端に長すぎず短すぎず、主催者が許可する長さでなければならない。

・規定違反に対する措置として、規定の長さに対する違反が1cm未満の場合、減点1のペナルティが科され、試合を開始する。

・規定の長さより1cm以上足りない場合、契約違反となり、失格または罰金の対象となる場合がある。ただし、選手が代替の道着へ着替えた上で試合の継続を希望する場合は、主催者の許可のもと試合の実施を認める。

●帯留めによる帯の結び目の固定と色分けについて

- ・帯の結び目を帯留め、又は、テーピングで試合中に可能な限り、解けないように固定する。

その上でスタッフによるビニールテープ(コーナーで色分け)での固定、並びに認可サインを受けなければならない。

●道着下のウェア着用について

・全選手は下衣の下にアンダーウェア(下着)を着用しなければならない。

アンダーウェア(下着)は体にフィットするものでなければ許可されない。

・男性選手は、任意で上衣の下にラッシュガード(半袖又は長袖)を着用することができる。また任意で下衣の下にロングスパッツを着用することができる。それらは体にフィットするものでなければ許可されない。

・女性選手は、上衣の下にラッシュガード又は、同等の合成繊維のウェアを着用しなければならない。また、任意で下衣の下にロングスパッツを着用することができる。

それらは体にフィットするものでなければ許可されない。

●テーピング/サポーターの装着

・選手は事前に許可された以外のテーピングやサポーターを装着してはならない。

プラスチック、金属、紐、その他の安全でない、または不当なアドバンテージにつながると思われる素材を使用したサポーターは許可されない。

また、選手は、ケージ内やリング上でシューズを履いてはならない。

●任意によるマウスピースの使用

選手は、任意でマウスピースを使用することができる。

ただし、試合中にマウスピースが外れた場合でも、レフェリーは当座の攻防を妨げることなく、試合を進行させる。

選手が、マウスピースが外れたことを理由にタイムアウトを要求したり、故意にマウスピースを吐き出しているとレフェリーが感じた場合は、減点につながる可能性もある。

●頭髮の固定

レフェリーが必要と判断した場合、すべての選手は、双方の視界と安全を妨げない形で髪の毛を固定しなければならない。

その際、どちらかの選手に怪我をさせるような道具を用いて髪を固定してはならない。

●宝飾品やアクセサリ

選手は、宝飾品やアクセサリを着用してはならない。

●ボディ用化粧品

ボディ用化粧品の使用は許可されない。

顔用の化粧品の使用(メイク)については、主催者、又はレフェリーの裁量に任される。